

## 競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 [指定：平成24年7月、認定：平成30年3月]

## I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(3.7 + 2.9) / 2 = 3.3$ 

3.3

## i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	耕作放棄面積	93%	4
2	農業従事者数	98%	4
3	農業生産出荷額	98%	4
4	農業所得	84%	4
5	市人口社会増減数	100%	5
6	観光入込客数	91%	4
7	地域資源を活用する民間企業の誘致数	0%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 1 + 4 \times 5 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 7 = 3.7$ 

3.7

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

## ■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

## ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

2.9

## II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(2.3 + 4.0) / 2 = 3.2$ 

3.2

## i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.3

## ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

—

## iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

2.0

・市人口社会増減人数については、平成29年度は、既に社会増を実現している。これが「田園回帰」などを反映した動きなのかどうか、さらなる分析を行い今後の戦略に生かすことが必要であろう。

・特区としての、地域独自の取組は概ね活発であると評価できる。一方、規制の特例、財政・金融・税制上の措置いずれも利用されておらず、総合特区に指定されているメリットは無いのではないかと。

・全体として計画から何を実現したいのかが見えてこない。「地域資源を活用する民間企業の誘致」とあるが、ここでいう「地域資源」とは何か。これが耕作放棄地面積や農業従事者数、農業生産出荷額や農業所得とどのような関連を有するのか分からない。

・特区の目標と政策が一致しておらず、戦略として破綻していると言わざるを得ない。こうした農業関連の指標を取り下げて、本特区が目指すべき姿に合った評価指標に改めてはどうか。

・合計量ではなく、動きを反映した数字にした方がよいのではないかと。また、進捗度の算出方法がおかしい箇所があり、算出方法を根本的に考えなおす必要がある。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

2.0

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(3.3+3.2+2.0 \times 2) \div 4 = 2.6$

2.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。